

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」取組状況について

都道府県名	07 福島県
市区町村名	07422湯川村
自治体区分	都道府県

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先
07422湯川村	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	本村は「米と文化の里」を掲げ、稲作が盛んで、寺や遺跡の文化財も多い。児童生徒は農業を手伝うことが少なく、史跡に関わることも少ない。また、教員の95%は村外者で農業や文化財にも詳しくなく、総合学習等の指導にも困難をきたしている。	・小中学校の教育課程に農業体験学習を位置づけ、その時期には推進員が地域人材と連携し、確実に協力を派遣できるようにする。 ・地域の歴史や文化財の学習には、子どもに寄り添って学習を進められる郷土史家や人材を確保し、打合せを密にし、充実した学習になるようにする。	・田植え、稲刈り、サツマイモ等の野菜栽培には、各校へ適した人材を派遣し、有意義な体験学習となった。 ・地域の歴史や文化財等の地域探究学習は、教員の反省では、「十分に深められなかった」という声が多かった。	体験学習や地域探究学習が充実し、地域の人材が有効に活かされ、学校と地域の両方が満足を得られるようにする。	教員と地域の協力者へのアンケート調査による満足度	50	%	80	80	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。 ・田植えと稲刈りだけでなく、種もみの発芽や草取りを見学したり、収穫後には生産者の方の協力で販売活動にも取り組んだりすることができた。反省では子どもたちが米作りに誇りを持つ姿が見られた。また、協力者からも喜びの声が聞かれた。 ・授業での映像や講話だけでなく、史跡の現場に地域の方が一緒に出かけて説明するなどして、学習内容について理解を深めることができた。	https://www.vill.yugawa.fukushima.jp/
07422湯川村	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	児童・生徒数の減少により、学校の環境整備(除草作業等)をするPTAの奉仕作業でも、人手が足りなく、十分な環境整備ができない。	・除草作業には、刈払い機を使える方が多数必要なので、作業の可能な人材がいる団体(農業従事者、老人連合会等)に広く依頼する。	・老人連合会の役員の方が、刈払い機を使つての協力があつたが、「作業してみても、さらに人数が必要」という声があつたので、R7年度は、協力人数を増やす。	作業協力者の人数が増え、環境整備が整う。	地域の協力者の人数	20	人	30	37	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。 ・中学校の除草作業に老人連合会の方が前年度よりも増加したり、小学校のクリーン活動や秋の落ち葉掃きの校外清掃に地域の方が多数参加したりした。地域の皆さんに「我が村の学校や子供のため」という意識の高まりが見られた。ただ、除草作業は、生徒数の減少により手が回らず、さらに協力者が必要である。	https://www.vill.yugawa.fukushima.jp/